

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート (一次)

事業番号	2		評価者	担当課等	学校教育課			
事業名称	個性を伸ばし主体的に学ぶ力を育てる教育の推進							
項目名称	①私立幼稚園就園奨励費補助事業							
①事務事業概要	実施根拠法令	二戸市幼稚園就園奨励費補助金交付要綱						
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()						
	事業費内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 国庫補助 <input type="checkbox"/> 県単 <input type="checkbox"/> 一般財源 <input type="checkbox"/> その他 ()						
	対象(～に対して)	保育料を減免する幼稚園の設置者(幼稚園に就園する幼児の保護者)						
	目的(目指すべき姿)	保護者の経済的負担を軽減することにより、幼児教育の普及、振興を図る。						
事業内容	保護者の所得状況に応じて、保育料を減免する幼稚園の設置者に対し、減免に要する経費を補助する。							
②事業実績・効果	区 分		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	事業の実績	1	補助金額	千円	19,455	17,801	17,847	18,037
		2						
		3						
	事業効果	1	対象園児	人	246	215	216	194
		2	対象幼稚園	園	3	4	4	3
3								
③事業費	区 分		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	決算額		千円	19,455	17,801	17,847	18,037	
	年度の歳出(節別内訳)		千円	・補助金 19,455	・補助金 17,801	・補助金 17,847	・補助金 18,037	
④事務事業評価	担当課による一次評価(内部評価)	<p>[必要性] 就学前教育充実のため、幼稚園教育の普及・充実を図る必要がある。</p> <p>[有効性] 保護者の経済的負担を軽減することで、幼稚園の就園が奨励され有効である。</p> <p>[効率性] 国の補助制度(幼稚園就園奨励費補助金)があることから効率的であるが、国の補助要綱の補助率(3分の1)による補助額となっていないため、市の負担割合が多い。 (平成21年度において、事業費18,037千円×1/3=6,012千円であるが、国からの補助額は4,648千円である。)</p> <p>[公平性] 保護者を対象として、国の補助基準に準拠して補助金を交付している。</p>						

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	2		評価者					学校教育課
事業名称	個性を伸ばし主体的に学ぶ力を育てる教育の推進							
項目名称	②学力向上対策推進事業							
① 事務事業概要	実施根拠法令							
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
	事業費内訳	<input type="checkbox"/> 国庫補助 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/> 一般財源 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
	対象（～に対して）	教職員及び児童・生徒						
	目的（目指すべき姿）	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学力テストを実施し、学力向上及び授業改善に資する。 ・「二戸市の先人たち」の発刊・活用により心の教育の充実に努める。 ・研究集録「このへ」の発刊により、互いの取り組みに触れられるようにする。 						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力テスト・県学習定着度状況調査の実施 ・「二戸の先人たち」発刊 ・研究集録「このへ」発刊（H20実践研究結果） 							
② 事業実績・効果	区 分		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	事業の実績	1	全国学力テスト実施人数	人	-	555	610	559
		2	県学習定着度状況調査実施人数	人	1,770	2,058	1,985	1,933
		3	「二戸市の先人たち」発刊	冊	-	-	1,000	-
		4	先人教育検討委員会	回	-	-	2	-
		5	「わたしたちの二戸市」発刊	冊	-	-	-	600
		6	社会科副読本検討委員会	回	-	-	-	2
		7	研究集録「このへ」発刊	冊	100	100	100	100
	事業効果	1						
2								
③ 事業費	区 分		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	決 算 額		千円	1,047	1,055	1,319	1,753	
	年度の歳出（節別内訳）		千円	<ul style="list-style-type: none"> ・旅費 6 ・需用費 1,041 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅費 5 ・需用費 1,050 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅費 4 ・需用費 1,315 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅費 2 ・需用費 176 ・委託料 1,575 	
④ 事務事業評価	担当課による一次評価（内部評価）	<p>○全国学力テスト・県学習定着度状況調査 両テストは児童生徒一人一人の学習の定着状況を把握し、その結果を基に指導の充実を図ることを目的としている。 教育委員会では指導主事が市の結果を分析し、校長会議の議題として取り上げ、指導改善の方向性を示すとともに、各校では自校の結果をもとに学力向上に向けた取り組みレポートを作成し、学力向上に取り組んでいる。20年度と比較して全体として学力は向上してきている。</p> <p>○「わたしたちの二戸市」発刊 本副読本は3・4年の社会科で使用するものであり、子ども達が地域の産業や自然に関心を持ち、郷土に対する誇りや愛着を持つことができるよう編集し、市内小学校3年生に配布しているものである。 平成21年度は部分改訂を図り、諸データの更新や浄法寺浄化センターなどを新たにに取り上げ、学習がより効果的に展開されるよう編集に努めた。</p> <p>○研究集録「このへ」発刊 本集録は、二戸市教育研究所発足以来、各年度毎の教育実践を1冊にまとめ、その成果を広く各校に普及することを目的としたものである。 平成21年度は各校のキャリア教育の全体計画と年間指導計画を別冊にまとめ、紙面においてそれぞれの特色あるキャリア教育を交流することができた。</p>						

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート (一次)

事業番号	2		評価者	担当課等	学校教育課			
事業名称	個性を伸ばし主体的に学ぶ力を育てる教育の推進							
項目名称	③教職員研修事業							
① 事務事業概要	実施根拠法令							
	実施方法	■直接実施 □業務委託 □補助金交付 □その他 ()						
	事業費内訳	□国庫補助 □県単 ■一般財源 □その他 ()						
	対象 (～に対して)	小・中学校の教員						
	目的(目指すべき姿)	学校教育を推進していく上で必要とされる研修を実施し、教員としての指導力の向上に資する。						
事業内容	・小学校授業改善研修会 (英語活動) ・小・中学校授業改善研修会 (キャリア教育) ・小学校英語活動研修会 ・幼児教育研修会							
② 事業実績・効果			単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	事業の実績	1	授業改善研修会	回	1	3	2	2
		2	希望研修会	回	1	2	2	4
		3						
	事業効果	1	授業改善研修会	人	—	—	33	35
		2	希望研修会	人	—	—	47	85
3								
③ 事業費	区分		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	決算額		千円	14	14	15	10	
	年度の歳出 (節別内訳)		千円	・需用費 14	・需用費 14	・需用費 15	・旅費 10	
④ 事務事業評価	担当課による一次評価 (内部評価)	○小学校授業改善研修会 (外国語活動) ALTやICT機器の効果的な活用を含めた外国語活動の学習指導について、授業研究会を通して理解を深めることができた。 ○中学校授業改善研修会 (保健体育: 武道) 体育担当教員と地域指導者との連携による、柔道及び剣道の指導の在り方について理解を深めることができた。 ○中学校体育実技研修会 中学校武道必修化に向け、武道授業を実際に行ううえで必要となる、基本的な指導技術と安全面への配慮事項について研修を深めることができた。 ○小学校外国語活動研修会 小学校外国語活動の学習指導のあり方について、演習を通して理解を深めることができた。 ○小学校外国語活動スキルアップ研修会 演習を通して、外国人ALTとのかかわり合いやクラスルームイングリッシュについての研修を深めることができた。 ○幼児教育研修会 幼稚園・保育所と小学校との連携について、保育参観・講話及び意見交換等を通して理解を深めることができた。						

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート (一次)

事業番号	2		評価者	担当課等	学校教育課		
事業名称	個性を伸ばし主体的に学ぶ力を育てる教育の推進						
項目名称	④特別支援教員補助員配置事業						
① 事務 事業 概要	実施根拠法令	学校教育法・発達障害者支援法					
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()					
	事業費内訳	<input type="checkbox"/> 国庫補助 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/> 一般財源 <input type="checkbox"/> その他 ()					
	対象(～に対して)	障がいを持つ児童生徒や特別な支援を必要とする児童生徒					
	目的(目指すべき姿)	障がいを持つ児童生徒や特別な支援を必要とする児童生徒に対して個別支援を行い、教育効果を高める。					
	事業内容	学習・学校生活両面の支援を行う特別支援教員補助員を配置する。					
② 事業 実績 ・ 効果	区 分		単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	事業の実績	1 補助員配置	人	8	9	14	14
		2 補助員配置	校	5	8	10	9
		3 配置内訳		二戸西小、石切所小各校1名 中央小、金田一小、浄法寺小各校2名	仁左平小、中央小、二戸西小、石切所小、御返地小、金田一小、福岡中各校1名 浄法寺小2名	福岡小、石切所小各2名、仁左平小、中央小、二戸西小、石切所小、御返地小、浄法寺小各1名、福岡中3名、浄法寺中1名	福岡小5名、中央小2名、二戸西小、石切所小、御返地小、金田一小、浄法寺小、金田一中、浄法寺中、各1名
③ 事業 費	区 分		単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	決算額(平成22年度は見込額)		千円	9,042	9,960	14,837	16,027
	年度の歳出(節別内訳)		千円	・報酬 9,002 ・共済費 40	・報酬 9,907 ・共済費 46 ・旅費 7	・報酬 14,783 ・共済費 44 ・旅費 10	・報酬 15,934 ・共済費 73 ・旅費 20
④ 事務 事業 評価	担当課による一次評価(内部評価)	<p>[必要性] 特別な支援を必要とする児童生徒が安心して学校生活を送るために必要である。</p> <p>[有効性] 支援を必要とする児童生徒への個々に応じた支援が可能となると共に、担任が学級全体に目を向けた指導が行えるようになり、学級全体にもたらす教育効果が高い。</p> <p>[効率性] 年間を通じて配置することにより、保護者、児童生徒との信頼関係が構築され、必要な支援がスムーズにできる。</p> <p>[公平性] 通常学級において、支援を必要とする児童生徒も他の子どもたちと同様の教育環境の下で学校生活を送ることができる。</p>					

II 二戸市教育振基本計画に基づく平成21年度分野別主要事業の取組実績

2-個性を伸ばし主体的に学ぶ力を育てる教育の推進

- ①私立幼稚園就園奨励費補助事業
- ②学力向上対策推進事業
- ③教職員研修事業
- ④特別支援教員補助員配置事業

【委員の意見・提言】

■ 2-①私立幼稚園就園奨励費補助事業

- ◆ 20年度に比較して21年度の対象園児数が22人減少している。その要因は何か。市内の幼児が全体的に減少したことによるものか、それとも保護者の経済的事業によるものか。そのあたりを判断する手がかりとして就園率の推移の記録が欲しい。その記録があれば、この事業の有効性を推し量ることが出来るように思います。
- ◆ 対象園児数が減少しているのに補助金額が190千円増加している。これは保護者の所得が低下してきているためか。そのあたりの分析をすれば必要性や有効性についての評価をもっと鮮明に出せると思います。
- ◆ 就学前教育の重要性は論を待たない。幼稚園教育としての就学前教育をよりよく充実させていくため、市としての補助は当然と考える。保護者の経済的負担を軽減させながら必要な教育に取り組みさせるための施設の教育実践計画の点検等、補助者である二戸市において検討していく必要があるのではないかと。また、補助金がどのように活用されているかについて、補助する側として明確にしていく必要がある。
- ◆ 私立幼稚園就園奨励費補助金について、国の補助基準額を交付するよう改善を求め、超過負担の解消を図るために、制度の継続と国庫補助の交付基準額満額補助交付を要望すべきである。

■ 2-②学力向上対策推進事業

- ◆ 教育委員会事務局と学校教育現場とを繋ぐパイプ役である指導主事による内部評価であると思われるが、各事業項目について適格な説明と評価がなされていると思います。いずれの事業も二戸市の学校教育の向上を図る上で、欠くべからざるものと思われしますので、発展的に継続して行かれることをお願いします。
- ◆ 小・中学校における学力向上対策は、これからも教育行政者として常に推進していかなければならない。全国学力テストの実施による結果は、メディアによる発表もあり、誰しもが理解していることである。その結果、考える力や理論付けに不足があると言われている。学校によるテストについて、答えが合っているか、つまり○・×による採点方式も問題があるのではないかと。その答えに達するまでの考え方もテストの中に取り組みする方法もあるのではないかと。しかし、現実として教職員の多忙さもあり、テストへの取組みに○・×方式が多くなるのではないかと。児童・生徒が「何故分からないか」を教員がしっかり把握することの指導がなされるべきである。
- ◆ 全国学力テスト、県学習定着度状況調査の結果を分析し、指導改善の方向性を示し、学力向上に向けた取組みを推進していただきたい。
- ◆ 前年度と比較し全体として学力が向上していることは、喜ばしいことである。

■ 2-③教職員研修事業

- ◆ この内部評価を見て、小中学校の授業の一部に新しい動きが生じて来ていることを知りました。内部評価は、その通りだと思いますが、研修回数とか参加人数については、目的・目標数値などに照らし合わせて、どうだったのでしょうか。このような観点からの評価があれば、事業の改善とか見直しのポイントが見えるものになると思います。
- ◆ 学力向上推進事業推進のための教職員の研修は、是非行なわなければならない。指導主事を招請しての研修会や岩手県教育委員会の主催する研修会等が計画的に年間多く開催される。研修会出席のため、各小・中学校に有効的に活用されることを願いたいものである。
- ◆ 教職員研修は、教職員の資質及び指導力向上を図る上で必要であり、今日的教育課題や指導方法の改善等内容の充実を図りながら計画的に実施継続すべきである。

■ 2-④特別支援教員補助員配置事業

- ◆ 補助員の配置については、基準のようなものがあるのでしょうか。あるとすれば、その基準のようなものに照らし合わせて、十分配置できたとか、まだ不十分であるといったような内部評価があっても良いのではないのでしょうか。仮に基準が無いとすれば、配置の必要性は誰が、どのようにして判断（認定）するのでしょうか。平成21年度は、これまでになく配置人数と配置校が増えていることから、このようなことが思い浮かんできました。
- ◆ 特別支援教員補助員の配置は、通常学級における支援を要する児童生徒が安心して学校生活を行うことができ、教育効果高く継続して行っていただきたい。
- ◆ 障がいを持つ児童・生徒の教育はより充実していかなければならない。それとともに、一般の児童・生徒（障がいを持たない）の意識の中に障がい児に対する偏見がないとも限らない。それを払拭する指導も一般児童・生徒に対しても行なわれなければならない。そしてすべてが同じ児童・生徒であることを認識させると同時に、共に生活することが出来る人間であることを認識させなければならない。そのことを前提に、特別支援教員の配置事業は教育行政の大きな責任である。そのことで当市における予算措置として有効に実施されているものとする。そのほかに、「ことばの教室」も充実していけるよう考慮されたい。